清経

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-001
国立国会図書館

次第

八重姉塩路乃うらの浪ハ重乃
塩路浪うらなすと九重小川をや
う面ゝ姉　是ハ左中将清経落
清内小仕へ中ゝ渋津乃三郎ゝ
老まそらひ扨も我を見ひ清経ハ
ゞ小しし筑紫乃甲ようちにけ
たまひ我へ老也為らぬ是乃

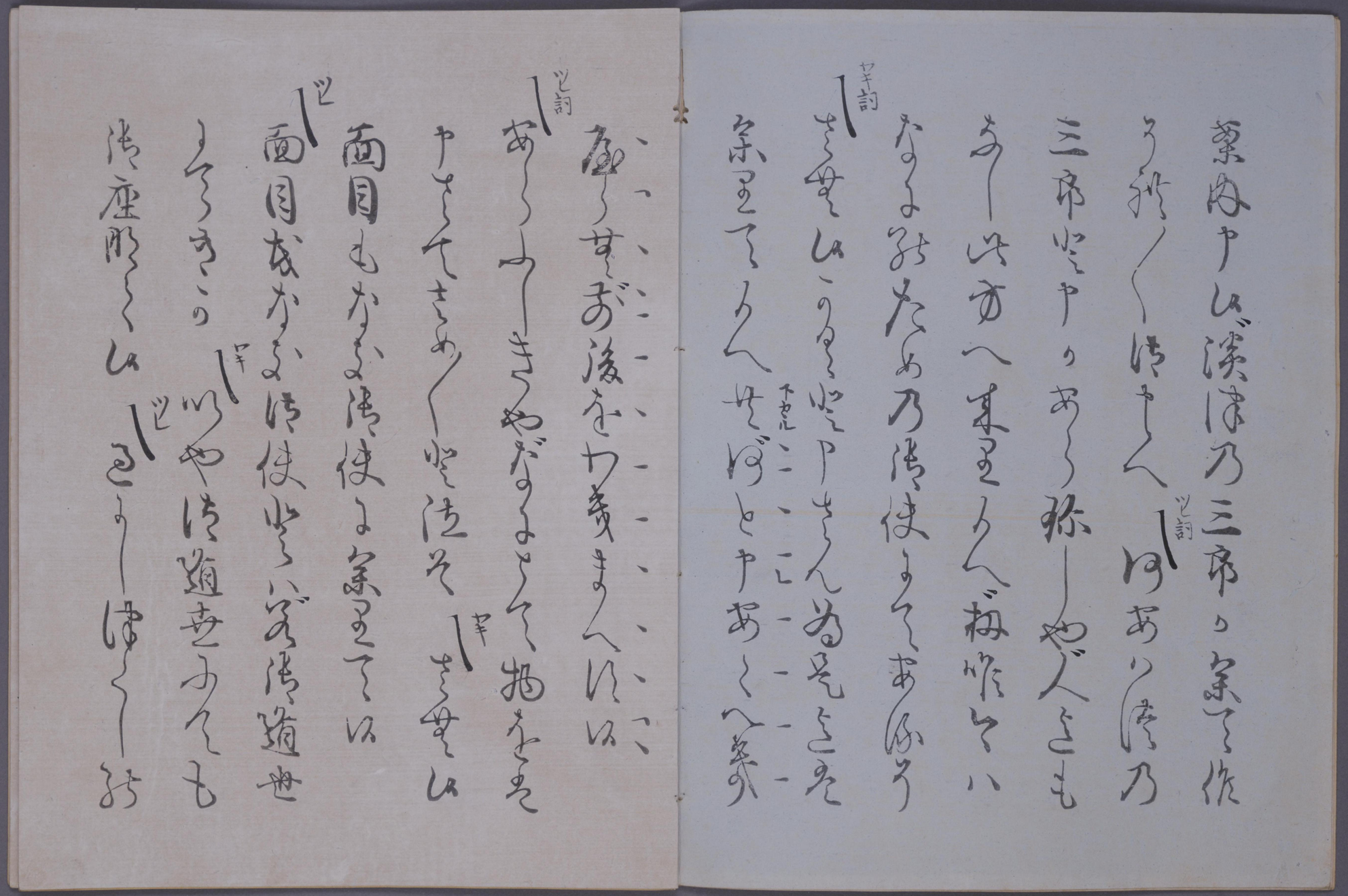
[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-002
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-003

国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-004
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-005
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[譜本] 清経 1冊 WA7- 029-006

国立国会図書館

下クドキ
〽さては中將殿乃夢に見え給ふや
ことさらに同じくも浮き心さへなる我も
思ひ乃下にすむやかゝるらん思ひに
心つくしの御髪なれをしさまよふ
返すもとの社にいさ手向
返しては夢もはかなし涙とこそなるに
おもひ枕の夢になすまでとも見えて
給へ寝られぬにかたむくる
枕やこひをしらすらん

サシ
〽聖人に夢なし誰あつて現と
見る眼裏に塵あつて三界
はせばく心頭無事にして一床
はひろしげにやうしと見し世も
夢つらしと思ふもまほろしの

ば又縁あれ雲水乃行も留成

閻浮乃故にはだと古き乃

その形さようたゝねに恋しき

人を見てしより夢てふものは

頼みそめてきいかにいにしへ人

きよつねこゝ参りて候

ツレ上カル

不思議や睡まぬ夜枕にみえし

給ふは実清経にてましますぞや

まさしく身をなげたまへり

ゆめならではかくみえ来る

下

よし夢なりとも御姿をみみえ

給ふぞありがたきさりながら

命をまたで我と身を捨てさせ

給ふ御事はいつはりなりける兼言なれ

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-009
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-010
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-011
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-012
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-013
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-014
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-015
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-016
国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-017
国立国会図書館

国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-018

国立国会図書館

[謡本] 清経 1冊 WA7- 029-019

国立国会図書館